

指定研究計画書

1 研究主題名

自ら進んでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成
～英語学習における指導の工夫を通して～

2 研究主題設定の理由

新学習指導要領では、外国語科・外国語活動について目標と内容、指導について示された。小学校段階では、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、言語活動を通してのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することを目指すことが目標となっている。中学年では、「聞く・話すこと」を中心とし、高学年では、「読むこと」「話すこと」「書くこと」を通して指導することになる。

本市においては、英語特区であることから、低学年における外国語活動の実施が可能であることから、低・中・高学年における指導の工夫や学びの連続性についての研究、児童が自習的にコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するため研究が必要であると考え。英語の授業でA L Tの英語に慣れ親しみ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通してコミュニケーションを図る基礎的な技能を身に付けるようにする。そのために必要な指導方法の工夫について研究を進めていく。

3 学年・領域

全学年

4 研究主任と組織

主任：比嘉 彩 A L T：伊波 優花子 ハナ・デグズマン
各学年英語部

5 年間研究計画

1 学年から4 学年までは週1回、5・6 学年は週2回、担任とA L TによるT T指導で、身近な英語表現、他教科とリンクさせた学習活動を実施する。その際、学級担任がT 1、A L TがT 2の役割を果たし、授業を進める。ただし、6 学年においては、沖縄県のフロンティア・ティーチャー（F T）の伊良皆慎子先生（志真志小学校所属）が英語専科として授業を受け持つ。

下記の目標に基づいて外国語教育を推し進めていく。

- (1) 日本語との違いに気づき、英語を聞くこと、読むこと、書くことに慣れ親しみ、実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けさせる。
- (2) 身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに自分の考えや気持ちを伝えることができるようにする。
- (3) 外国語によるコミュニケーションを図る基礎と資質を育てる。